

かわらばん 妻入り

事務局

新潟県出雲崎町

教育委員会

☎0258-78-2250

FAX 78-4559

今年も開催！ 『天神さま街道』

毎年、出雲崎・柏崎・刈羽の3地区での有志が共同で実施している『天神さま街道』。これは、地域の皆様がお持ちの掛け軸や像など様々な形をした「天神さま」をお借りして展示をしているもので、今年で3回目を迎えます。今年も1月から3月にかけて3地区合わせて全28会場にて様々な「天神さま」が展示されました。

今回、出雲崎町内で会場となったのは「天領の里時代館」、「北国街道妻入り会館」、「大黒屋菓舗」、



妻入り会館に展示された『天神さま』

【良寛記念館】の計4ヶ所。1月19日（土）から3月3日（日）まで（妻入り会館のみ1月26日（土）から2月25日（月）まで）天神さまの展示が行われ、各会場にはたくさんの方々が訪れていました。

この『天神さま街道』は来年も開催を予定しておりますので、機会がありましたら是非ご覧になってください。（敬称略）



天領の里では、学問の神様でもある『天神さま』にちなんだ「合格祈願コーナー」なども設けられました。

お願い

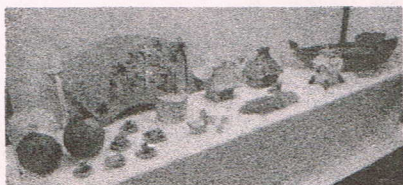
『天神さま街道』は、来年以降も開催予定です。もし「天神さま」をお持ちの方で、貸していただける方がいらつしやいましたら、出雲崎町教育委員会（☎ 78-2250）までご連絡ください。皆さまのご協力をお待ちしております。

妻入り会館

展示の紹介

現在、北国街道妻入り会館では、出雲崎町陶芸サークルの皆さんが作成した作品を展示しております。（左写真参照）陶芸サークルは毎週土曜日、出雲崎町中央公民館で活動しており、今回はその活動の中で作成した皆さんの力作を展示しております。

なお妻入り会館では、様々な作品を随時展示しております。こちらにおこしの際には是非ご覧になつてください。



町陶芸サークルの展示作品

妻入りの街(四十六)

住吉町 磯野 猛

人物往来 権田雷斧大僧正

平成十五年六月二十一日から二十九日までの間、良寛記念館の「心月輪」を会場として大きな展覧会が開催されました。これは眞言宗豊山派の管長、總本山長谷寺の化主を務められていた出雲崎出身の権田雷斧大僧正の没後七十回忌を記念として開催されたものでした。

雷斧大僧正については、眞言宗豊山派の人々にこそよく知られた人ですが、没後七十年となるとこのめまぐるしい世の中、一般の人々から忘れ去られるように思えます。そこで今回は、改めて雷斧大僧正について記してみます。

雷斧大僧正は弘化三年(一八四六)十二月二十二日に三島郡西越村大字市野坪、権田市良左衛門の

二男として出生されました。嘉永五年(一八五二)、同村の正法寺の智順師に付いて勉学をし、智順師の法孫、快鐙(かいばん)を師として剃髪得度、順基房快識と称しました。この時七才。そのころから既に天才ぶりを発揮し、一度読み書きしたことはすべて記憶したと伝えられております。安政元年(一八五四)、正法寺において百数十日間の報恩院流による四度加行を学び修業しました。これは眞言密教で仏門に入った者の灌頂の儀式の前に行われるものです。安政三年(一八五六)、十一才の時には奈良県の初瀬町、眞言宗豊山派の總本山長谷寺に上り、大道房良正、覚了房秀盛らに従って「俱舎・唯識・因明」などを学び、直接の師であった快鐙に宗乗・華嚴・天台を学ばれました。ここでも成績は抜群であったと伝えられております。また奈良東大寺勧学院、生駒郡の法隆寺勧学院にて研鑽。本師快鐙に従い、宗乗・両一乗を受け

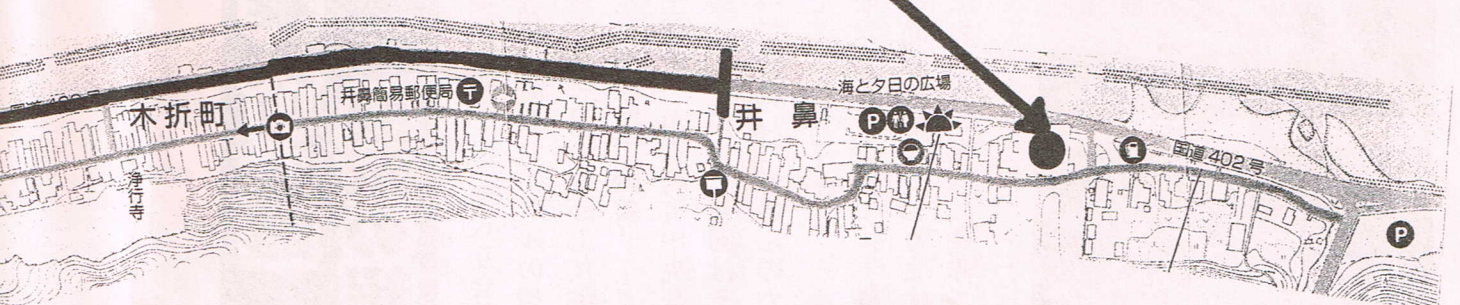
『ウォーキング』
始めてみませんか

出雲崎の海岸沿いあるウォーキングロード「出雲崎シーサイドコース」。ここでは、出雲崎の美しい街並みや日本海に沈む夕日などを楽しみながらのウォーキングができますが、今回はウォーキングロードに設置された、様々なものをご紹介します。

常夜燈(●印)



電灯が導入される前の時代、一晩中夜道を照らす「常夜燈」は、街道の道しるべや灯台の役目を果たしていました。



海岸地区(石井町～井鼻)マップ

られました。文久二年（一八六一）長谷寺学寮で学徒に唯識論・因明論等を開講。その後、幕府許可の学頭（教師の最高の首席）になりました。全国の秀才たちの集まる中、弱冠十六才の若さで学頭を務めるという天才ぶりでした。しかし、雷斧大僧正は、明治元年（一八六八）の動乱期に長谷寺を去ります。それから、戊辰戦争の戦火で焼けた正法寺が再建される明治十年（一八七七）までの間、浄土宗・浄土真宗を学び、更に曹洞宗に転入、名前を「雷斧」と改められました。また、東京の曹洞宗専門学校の学監を務め、浄土宗の福田行盛上人にも師事しました。その後、信頼していた知人のすすめで再び豊山派に帰られます。

そして故山の正法寺の再建に尽くし、多くの信者の要請で正法寺の住職になります。

このとき最初の著作となる『忍辱鎧訓』を出版しました。この『忍辱鎧訓』から、八十八才の時に書

いた『成唯識論述記帳中独断（上下巻・一八四頁）』及び『成唯識論帳中独断（完）（八〇頁）』に至るまで雷斧大僧正には、計十八巻の著作があり、それは『権田雷斧著作集』としてまとめられています。特に最後の作品は肉筆で書かれたものを忠実に本としたもので見事なものです。

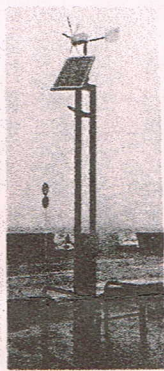
明治の初期、明治政府の一部に仏教を排斥しようとする勢力があり、宗教界が混乱して、廃仏毀釈の風潮が全国的に広まった時期がありました。若かった雷斧さんも宗教に対する思想の欠落を憂い、奥深い勉強に励まれたようです。特に八宗兼学から禅宗、浄土真宗も研究されたようです。また仏教以外の宗教についても学びました。雷斧大僧正の書いた作品の中には、見る人の心を動かすような十字架を書いたものがあります。これは、雷斧大僧正がキリストの愛についても十分に勉強されていたからの作品だと思っています。

東京藝大生スケッチ画パネル

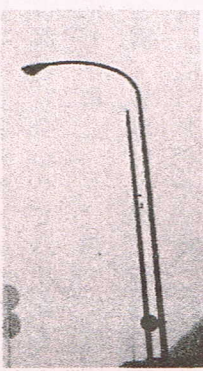


東京藝大生が出雲崎町を描いたスケッチ画のパネルが各町内に設置しており、ウォーキングロードを歩く皆さんの目を楽しませていきます。（下の地図の太線箇所）に全部で19枚設置してあります。）

ハイブリット照明灯（■印）

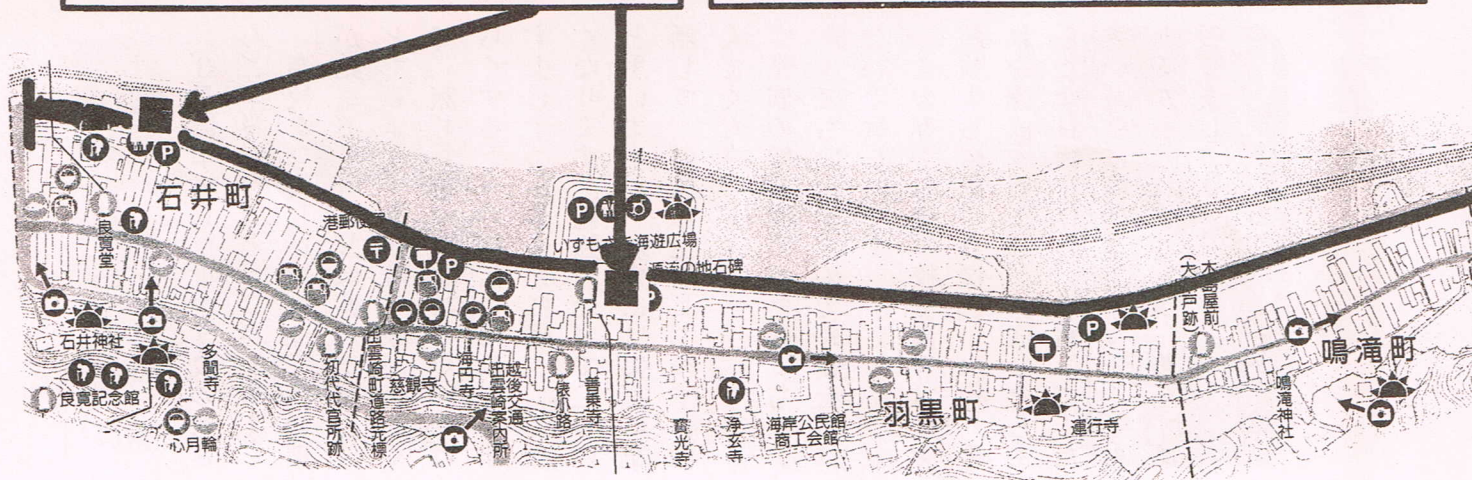


発電機



街灯

風力とソーラー、二つの力で電気を起こし、夜道を明るく照らします。



その十字架の上には、次のような賛があります。

耶蘇基督大明王
毘慮遮那等流身
爲償衆生罪惡友
十字架上代受苦

昭和八年一月元旦

米寿老 雷斧拜

注…等流身(とうるしん)とは

大日如来のこと

(書き下し文)

やそキリスト大明王
びるしやなどうるしん
衆生の罪惡友のために
十字架上代りて苦を受く

その後の大僧正の年譜をたどりますと、まず明治十一年(一八七

八)眞言宗豊山派東校助教授に就任、同九月には教授に就任されます。それから多忙な宗教活動に入られました。明治三十四年(一九〇一)には豊山派管長に就任、大僧正となり、總本山長谷寺の化主となりました。しかし明治三十八年(一九〇五)、雷斧大僧正は豊山派管長を辞して故郷の正法寺に入られます。

それでも宗教会では雷斧大僧正を必要としました。明治四十一年(一九〇八)、豊山大学を設立、学長に就任しました。また明治四十五年(一九一二)には天台宗大学の講師に就任され、そして眞言宗の学位「阿闍梨」を授けられます。以後明治後期から大正期にかけての宗教界での活躍は目覚ましいものがあります。

大正五年(一九一六)には東京帝国大学講師に就任。この時の講義は「密教綱要」としてまとめられています。なお、この「密教綱要」は漢訳され、中国でも出版を

されており。

翌大正六年(一九一七)、出雲崎において、良寛堂建立のために佐藤耐雪翁とも交わっております。

大正十三年(一九二四)には中国・台湾・香港に巡錫、昭和二年(一九二七)、大正大学第二代学長に就任されます。

そして、昭和八年(一九三三)米寿の記念として、「成唯識論述記帳独断」が出版されます。しかしその翌年、昭和九年(一九三四)二月七日に遷化されました。八十九才でした。

雷斧大僧正は、出雲崎が生んだ大人物です。

良寛さまが禅僧でありながら貧しい農家の人たちに頼まれた時には浄土眞宗の「南無阿弥陀仏」と唱へたり、日蓮宗の信者の人には「南無妙法蓮華経」と書き与えられた話は有名です。宗教は人の心を豊かにするものとして活躍された雷斧大僧正と共通していると思います。

あとがき

3月に卒業した小中学校の皆さんご卒業おめでとうございます。

高校を卒業した皆様は、新学期が始まると町外又は県外に出ることでしょう。最初は、家が恋しくて、寂しいと思いますが、しばらくすると今の生活に慣れてしまわず少しずつふるさとに帰ってこなくなりそうです。勉強や仕事で忙しいと思いますが、たまには実家に電話して、元気に生活してますと伝えてください。

家族の絆を深めるためにも、メールでもいいですので連絡を忘れないで欲しいです。

この春から中学校や高等学校で勉強する皆様、目標を一つ作りそれを達成すること。達成したらあらたな目標を作り、挑戦してください。時には前進できないこともあるかもしれませんが、焦らず頑張らしましょう。

石井町 納谷 稔